



**Q** 私の兄は男性ですが、女性として生活してきました。本人がトランスジェンダーであることは、私たち家族も認め合っていました。先日、兄は急逝し、お墓への納骨のとき、家族は本人の気持ち尊重して、正面向かって左側の女性の場所に納骨を希望しましたが、親戚のおばさんたちから、「跡継ぎの嫡子がこんな場所にウンチケイされるのは、沖縄で聞いたことがない」とか「これでは、グソーゴクラクならんど〜」と厳しく批判され、やむなく正面向かって右側の男性の場所に納骨しました。来年、ウンチケイと耳にしました。再度、お墓を開けて、兄を女性側に置いて大丈夫でしょうか？  
(那覇市・Sさん・40代・女性)

**A** ユンヂチは、沖縄の民間祭祀で普段は難しいさまざまな儀式に実践しやすいとされています。Sさんのおっしゃる通り、来年の令和2(2020)年はシングワチターチャー(旧暦4月が2回あること)です。なので、ご質問の問題解決には最適な期間だと思います。

よく、ユンヂチは閏年と勘違いされますが、漢字で書きますと閏月、つまり年ではなく、月(チ

チ)になりますので記憶に留めていただけたらと思います。

**LGBTを理解することの大切さ**

私たちの生きている現代社会は、それぞれの考え方や価値観が認められ、性においても多様性について理解していくことが必要な時代を迎えています。この多様な性を表現する言葉がLGBTです。

LGBTとは、レズビアン・ゲイ・バイセクシャル・トランスジェンダーの頭文字を並べたもので、そういった方々に理解する言葉です。

お兄さんの場合はトランスジェンダー、つまり身体の性は男性ですが、心の性が女性であったという事なのでしようね。今回のご相談では、ご本人のお気持ちを家族も理解されていますので、ご要望にそえるかと思えます。

**性別における沖縄の納骨場所**

これは、あくまで一般論ですが、沖縄のお墓には、男女それぞれご遺骨を安置する場所があります。これは、3パターンの上座・下座の組み合わせにより判断していきま

【パターン1】お墓の中の柵の上段を上座とし、下段を下座とする考え方  
(例：親子の場合、親が上段で子が下段。男女の応用もある)

【パターン2】左上右下(さじょううげ)という慣習を敬い、お墓の中の正面向かって右側(グソイヌビジャイ)を上座とし、左側(グソイヌニジリ)を下座とする考え方  
(例：男女の場合、正面向かって左側が女性で右側が男性)

【パターン3】お墓の中の中央を上座とし、両脇を下座とする考え方  
(例：男性の再婚の場合、中央が男性で正面向かって右側が先妻で左側が後妻)

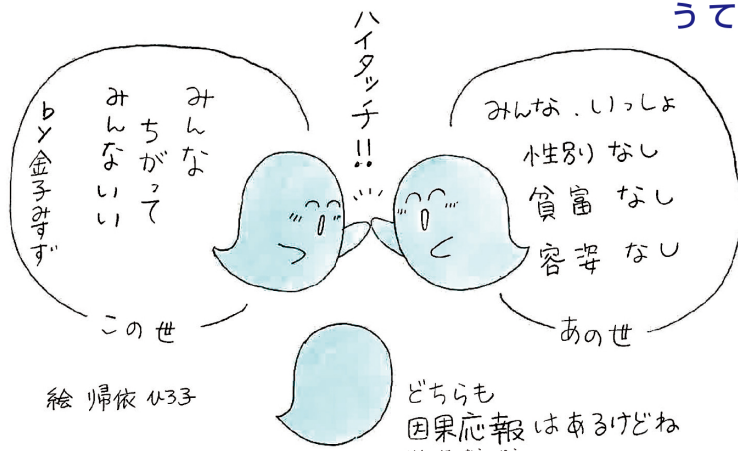
**性の多様性について理解を深めてもらう**

ユンヂチにお兄さんを、女性の納骨場所に移動することはもちろん可能ですが、親戚のおばさんたちのご意見は、決してその方々を責めることのできないもので、性の多様性について私たちの社会全体が抱えている問題であるといえます。

ユンヂチは、令和2(2020)年の丸々1年間だと考えられても間違

いではないですが、実際には、2回目の閏4月の1カ月間、新暦でいいますと、令和2(2020)年5月23日(旧暦閏4月1日)から6月20日(旧暦閏4月29日)が本来のユンヂチです。

それまでもう少し時間がありますので、Sさんから親戚のおばさんたちにご相談を申し上げ、理解を深めていただく努力は必要かと思えます。順序を追ってご説明すれば、沖縄では理解してくださることがほとんどですので、わずかながらでもご安心ください。



絵 帰依 43子

どちらも因果応報はあるけどね